

## 事業報告書 (No. 3)

1	支援団体名	團伊玖磨記念『筑後川』IN 小国 2007 実行委員会								
2	事業名称	團伊玖磨記念『筑後川』IN 小国 2007								
3	実施日時	平成19年9月22日・23日・30日								
4	実施場所	小国ドーム及び木魂館周辺								
5	事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>9月22日(土) 17:00～19:00          地域交流シンポジウム「わがまちのうた創造」          「ふるさとの讃歌」を歌い続ける筑後川流域5合唱団指導者が、自分たちの持ち歌に育てた創造性と社会活動について語り合った。地域住民にとって「わがまちの歌・故郷讃歌」がいかに文化性を高めるか方向性を示した。</p> <p>9月23日(日) 13:00～17:00          團伊玖磨記念『筑後川』IN 小国 2007          第1部 「筑後川流域に響くわがまちのうた」          第2部 團伊玖磨を歌う 第3部 合唱組曲「筑後川」を歌う 400名による大合唱</p> <p>9月30日(日) 9:00～12:00          「筑後川とこどもたちのふれあい事業」          1) 9:00～10:00          講義「筑後川を観る！知る！感じる！」あつまれ町内外のこどもたち          講師 松本健一(小国自然学校主任研究員)</p> <p>2) 10:00～12:00          「河川とゴミの関係を考えるガボロジーワークショップ」          河川でゴミを集め、その種類毎に振り分け河川を汚す原因について考える。</p> <p>(実施事業効果)</p> <p>シンポジウムや「筑後川」の大合唱には筑後川流域に生活している人たち約1,000人が集まり河川の持つ多目的機能を改めて感じた。          また、ガボロジーワークショップは、町内外の40名のこどもたちが参加し、身近なゴミや捨てられてしまうものから資源や暮らしとの関わり、ひいては地球環境について学ぶとともに、筑後川上流の環境や暮らしと河川の関わりを学んだ。          これを機に、筑後川流域に暮らす参加者が「川」に対する愛着を感じたと思う。</p>								
6	参加内訳	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>総人数</td> <td style="text-align: right;">1,000名</td> </tr> <tr> <td>(1)主催者参加</td> <td style="text-align: right;">450名</td> </tr> <tr> <td>(2)日本人参加((1)を除く)</td> <td style="text-align: right;">550名</td> </tr> <tr> <td>(3)外国人参加((1)を除く)</td> <td style="text-align: right;">0名</td> </tr> </table>	総人数	1,000名	(1)主催者参加	450名	(2)日本人参加((1)を除く)	550名	(3)外国人参加((1)を除く)	0名
総人数	1,000名									
(1)主催者参加	450名									
(2)日本人参加((1)を除く)	550名									
(3)外国人参加((1)を除く)	0名									
7	今後の方針									

「筑後川流域に響くわがまちのうた」



合唱組曲「筑後川」を歌う 400名による大合唱

